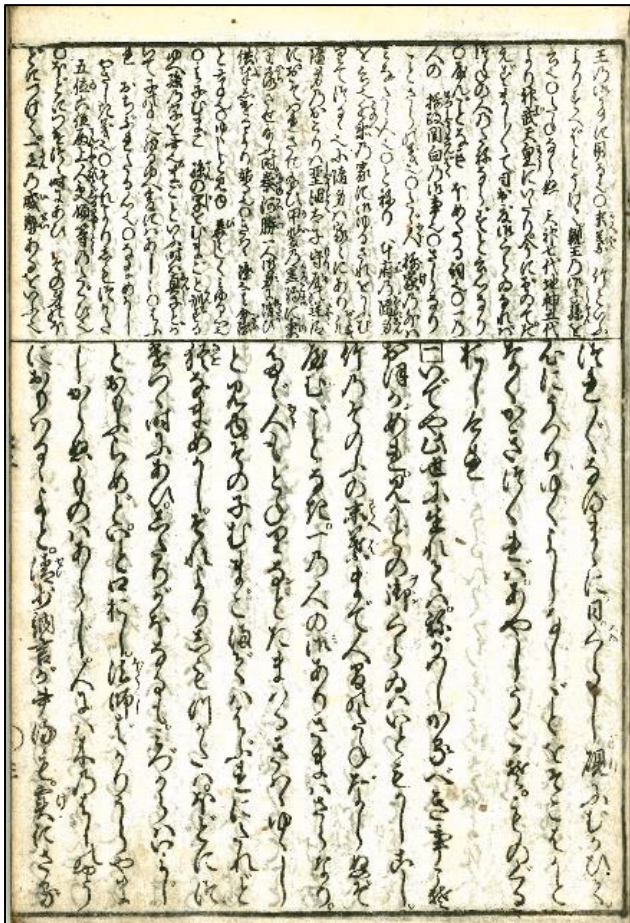


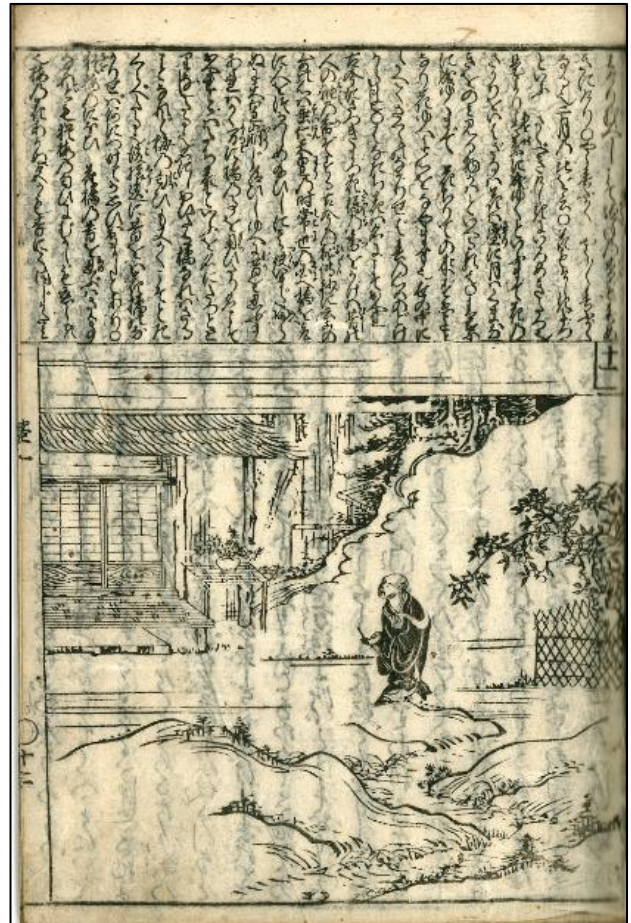
群馬県立文書館 教材活用史料詳細カード4

請求番号	P8702	文書番号	1274、1275、1276	年代	鎌倉時代末～南北朝時代 江戸時代
史料名	徒然草絵抄（本文の記載「頭書徒然草絵抄」、題箋「徒然草吟和抄」）一、二、三				
形態	和本（木版）	複製	あり・なし		
備考	寄贈の古文書（勝山敏子家文書）、 「徒然草」の成立年代は鎌倉時代末～室町時代前期で、本史料は江戸時代の出版物				
史料概要	<p>「徒然草」は日本三大随筆の一つで、鎌倉時代末期から南北朝時代に成立した。作者の兼好は生涯の多くを京都で過ごしたが、少年時代を鎌倉周辺で送り、北条一門の金沢氏に仕え、南北朝時代は足利幕府の有力な武家・貴族の家に入出入りしていたと考えられている。実際「徒然草」には、東国の習俗や鎌倉幕府要人のエピソードが好意的に書き留められている。また、都の人々にとって異質な存在であった東国出身者に対する合理的な見方も読み取れる。</p> <p>本史料自体は江戸時代の版本だが、挿絵入りという特色があり、語句等の頭注（頭書）も充実している。「徒然草」は江戸時代、思想を学べる読み物、人生の指南書として儒者や一般の人々に人気があったといわれている。実際、挿絵と頭注の入った本史料は、当時の高い評価や、学術・文化、出版技術の水準の高さに対する理解を促すことができると考えられる。</p>				
指導要領 (内容)と の関連	<p>&lt;小 6&gt; (2)-ア-(エ) 鎌倉時代の文化、(2)-ア-(ク)江戸時代の文化          &lt;中 歴&gt; B-(2)-ア-(ウ) 鎌倉時代の文化、B-(3)-ア-(ウ) 江戸時代の産業の発達と文化          &lt;高日探&gt; B-(3)-ア-(ア) 武家政権の伸張、文化の特色、 C-(3)-ア-(イ) 近世の文化</p>				
活 用 例					
活用単元	鎌倉時代の文化（文学）、江戸時代の文化（学術、古典文学の普及、出版の隆盛）				
活用場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鎌倉時代の文化の代表作、およびこの時代の様子、または江戸時代の文化の様子がわかる史料として、導入、及び探求する場面での活用。</li> </ul>				
活用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本文は変体仮名やくずし字で書かれているため、直接読解することは難しいが、国語の教科書などの本文を活字化した資料や現代語訳、解説書と併用すれば、現代と違う生活や物の見方、また、現代と変わらない人間模様を読み取ることができると考えられる。</li> </ul>				
予想される 生徒児童の 反応など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本史料の挿絵を活用することで、人物の衣服・髪型・建築・場所（農村、墓場等）等の様子を読み取ったり（江戸時代に描かれた絵であることには注意）、吹き出し（せりふ）を考えて書き込んだりするなどして、内容の理解を深めることもできるだろう。</li> </ul>				

徒然草絵抄 (P8702 1274)



序段  
「つれづれなるままに日暮らし……」と第1段



国語の教科書によく採られる第11段  
「神無月の頃、栗栖野といふ所を過ぎて…」の挿絵



国語の教科書によく採られる第92段  
「ある人、弓射る事を習ふに、諸矢を……」の挿絵